

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873400739		
法人名	社会福祉法人 円融会		
事業所名	グループホーム サルビア		
所在地	兵庫県神崎郡福崎町大貫580		
自己評価作成日	令和4年11月21日	評価結果市町村受理日	令和5年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎食、事業所内で調理し時々には利用者にも盛り付けなどを手伝ってもらっている。また、季節の食材を使ったり、行事食の提供、誕生日には利用者のリクエストに答え、食べたい物を提供したりテイクアウトなども活用しながら日々の食事に楽しみを持ってもらっている。 ・毎日の入浴ができるように環境作りを行っている。 ・看取り介護を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2873400739-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館内		
訪問調査日	令和4年12月15日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かな高台に法人本部、特別養護老人ホームが同敷地内にあり、地域密着型特別養護老人ホームが併設された複合施設の中に事業所はある。法人全体で介護の質を上げるための大幅な仕組みの改善に、コロナ禍の中で取り組まれている。利用者・家族の意見を大切にしながら、職員の手作りの食事、毎日の入浴、オムツ使用の方への排泄介助など、利用者一人ひとりのこれまでの生活の継続に職員全体で努められている。外国人技能実習生の受け入れによる食事のメニューや社会性の広がりなど、活性化にも力を注がれている。職員の定着率もよく、良好な関係性が温かい家庭的な雰囲気を創られている。熱意のある指導者の基、ますます今後の活躍に期待が持てる事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に暮らす」という法人の理念のもと、「五つの想い」「五条心」を掲げ、実践に繋がられるよう職員個々が意識するよう心掛けている。また、ミーティングの度に伝え再認識するようにしている。	法人全体の理念である「共に暮らす」の理念のもと、「五条心」に加えてグループホームの理念「五つの想い」を掲げ、玄関やフロアに掲示されて地域密着型サービスの意義が示されている。家族にはパンフレットを活用し理念についての思いを伝えられている。職員間では、理念を共有し毎月のミーティングで利用者に対する関りが、理念に向けて実践されているかどうかの確認が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の観点から、地域との交流ができていない。地域の小学生と合同で夏休みのラジオ体操を実施する予定であったが併設特養の職員家族がコロナ感染者となり中止となった。外出支援は近隣の状況に応じ実施。	地域の小学生と合同で夏休みにラジオ体操を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催には至らず、トライやるウィークやボランティアの慰問、ふれあい喫茶などの地域行事も中止となり、地域との交流が難しい状況であった。事業所周りの散歩途中に地域の人にあいさつや雑談程度は行われている。	地域役員からラジオ体操やふれあい喫茶などが開催できるようになれば良いとの要望もあり、感染症対策に留意しながら、地域活動である清掃活動や地域防災訓練などに関わるなど、地域交流を深める取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特養と共同で認知症サポーター養成講座を行っていたが、昨年度と同様で行えていない。打ち合わせは今年度から参加している為、再開の機会を作っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防から運営推進会議は開催できていないが、10月17日に郵送にて書面で意見を頂戴し、議事録の中で事業所が返答する形式「書面開催による運営推進会議」として開催した。	前回、目標達成計画に掲げられていた項目である。新型コロナウイルス感染症予防のため、書面会議が開催されている。会議のメンバーや家族などに会議の案内と共に返信用封筒を入れ、多くの意見を貰える成果が得られていた。第三者評価受審結果に対する報告だけでなく、目標達成計画の進捗状況を報告する取り組みなども望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協働関係を築くように取り組んでいる	窓口に行った際や日頃の電話連絡などの際にも出来るだけ情報交換を行うように心掛けている。	町の担当者や地域包括支援センターとは、日頃から事業所の取り組みや現状を伝えており、顔見知りの関係ができています。積極的に情報交換が図られ協働関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現在は0件。特養と共同で身体拘束廃止委員会を運営し、グループホームミーティング時に個別のケアカンファレンスとも紐づけしながら、身体拘束に値しないケアの話し合いを行っている。	併設されている特別養護老人ホームと共同で身体拘束廃止委員会が設置され、身体拘束についての指針も明確に示されている。玄関やホール入り口の施錠はされておらず、現在、事業所での身体拘束の事例はない。月1回のミーティングでケアの振り返りや検討、身体拘束についての意識付けが行われ、身体拘束をしないケアに取り組まれている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特養と共同で虐待防止委員会をR4年6月より立ち上げ委員会を月1回実施。委員会内容を議事録及びグループホームミーティングでも再確認し職員へ周知徹底を行っている。また、虐待の兆候となる12項目を掲示し意識付けを行っている。	特別養護老人ホームと共同で虐待防止委員会が令和4年6月に設置され、月1回委員会が開催されている。虐待防止についての勉強会は6月と11月に行われていた。事業所の職員全員に「虐待の芽チェックリスト」を配布し現在集計中である。今後も定期的に行い、不適切なケアをしない取り組みに努められる予定である。また、管理者が職員全員の個別面談を行い意見を聞く機会を設け、ストレス軽減に努めている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてのパンフレットは設置しているが、事業所内での研修は出来ていない。	成年後見制度を利用されている利用者は1名居られる。事業所内での職員研修は、まだ行えていないが、運営推進会議を活用し成年後見制度などについて学ぶ機会を作り、家族や職員に周知を図る予定をうかがった。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に関しては、事前に施設へ来所していただき口頭説明を行っている。入所時に重要事項説明書、契約書の内容について双方で確認しながら行っている。 また、制度改正時には説明文書を郵送し理解を得ている。感染対策中でも施設見学の希望があれば実施している。	事前に短時間での見学が行われ、パンフレットを活用し料金やサービス内容等を説明されている。契約時には重要事項説明書、契約書の内容を丁寧に説明し「急変時の医療に関する意思確認書」「急変時ならびに終末期ケアに関する意向調査票」で緊急時対応についての意向も確認されている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス計画書作成時には利用者、ご家族へ意向を確認しているが、その際にサービスについての意見も聞かせてもらっている。 利用者、ご家族からの意見については都度のミーティングで検討、共通理解を図っている。	利用者の意向は日々の関りの中で聞き取り、家族からは書面会議で意向の確認ができている。利用者や家族からの意見や要望についてミーティングで検討し、サービスに反映させていくよう取り組まれている。	
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング開催前に各職員へ議題を募りミーティング時に検討するようにしている。 また日頃から職員とのコミュニケーションを大切に、何気ないことでも会話をするように心掛けている。	月1回の事業所全体ミーティング開催前に職員に議題を募り、ミーティングで検討されている。利用者の対応や業務の見直しについての議題が多く、事業所全員で話し合いが行われている。管理者はコミュニケーションを心掛け、職員からの意見に耳を傾けるよう努められている。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の条件に可能な限り応えられるようにし、処遇改善などでも反映できるよう努力をしている。 業務に対する意向なども日頃から話ができる環境に心掛けている。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から事業所外研修の参加希望が少なくまた、事業所としても研修情報を多く提供できていない面がある。 ケア方法については業務中に指導をすることで、介護技術の向上に努めるようにしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡市内で行われている介護支援専門員連絡会や神埼郡内で行われている外部研修に参加したり日頃から居宅事業所などと細かく連絡をとるよう意識している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接を行い本人やご家族、現在関わっているサービス事業所までから情報収集を行い、職員内で情報共有しながら初期の関係づくりに活かすよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面接を行う際に、ご家族の要望等をお聞きしたり施設見学をしてもらったりしている。また入所までに電話を中心に何度も連絡を取らせてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接を行う際に利用者の心身状況や意向、ご家族の意向などを聞きながらケアマネージャーを含めてサービスの選択を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯済みの片付けや収納、料理の盛り付けなど日常生活において職員が付き添いながらできることは利用者にしてもらうようにし、各々の役割を担ってもらえるよう心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人とご家族の間に立ち、双方の意向を確認したり適宜連絡調整をしながら、ご本人、ご家族にとってよりよい支援を心掛けている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通われていたかかりつけ医を受診してもらったり美容院を利用してもらえようご案内しているが、家族の負担などもありなかなかなじみの関係性が難しくなっている。	今までのかかりつけ医を受診継続されている利用者は4名居られる。新型コロナウイルス感染症の影響で思うように外出や面会ができず、また、家族の負担から美容院の利用が困難になっているが、ドライブ時には自宅や馴染みの場所を通ることで関係を断ち切らないよう努められている。	

自己 者 第	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係性を築けるよう、利用者個々の性格や個性を把握しながら中間的に関われるよう支援している。また、利用者と職員だけの関わりにならないよう、利用者同士が関りを持てるよう支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了する際は今まで事業所で過ごされてきた情報を共有し、ご家族にはサービス終了後も相談や連絡をいつでもいただけるようお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常支援の中や関わりを持つ中で、意向を伺ったりご本人の思いを感じ取るようにしながらご家族の思いも踏まえ上でミーティングで検討するようにしている。困難な場合は関わりながら表情の変化や会話の中で汲み取ろうと努めている。	日々の関りの中で本人の思いや意向の把握に努められている。自分の思いが言葉で伝えられない利用者については、表情や家族からの情報を基に検討されている。本人の思いや意向はケース記録、申し送りノートに記入し職員間で共有されている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時などにご本人やご家族、関係事業所などから情報収集を行い、アセスメントシートとして職員内で共有している。また入所後もご本人と積極的に関わり、日常会話を通してさらなる情報を収集するよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の支援の中から必要な情報を記録したり引き継ぎ時などに情報共有するなどし、現状把握を行っている。またミーティング時にも意見交換を行いながら情報共有をしている。		
26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族へ生活に対する意向を伺い、ケース担当者、計画作成担当者、介護主任が中心となって原案を作成し、ミーティング時に職員全体の意見を聞きながら作成している。ご本人、ご家族の意向をプランに反映するようにしている。モニタリング時にプランの達成状況を確認している。	事業所独自のケアチェック表を活用し、サービス内容が実践できているか日々確認が行われている。本人や家族の意向の聞き取りを行い、モニタリング時に達成状況を把握しながら、職員間で本人の思いに沿った介護計画の作成に取り組まれている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や気づきはケース記録に入力している。食事や入浴などの日々の実施したケアも記録している。引き継ぎ時には時間帯別で色分けした記録となっており情報共有をしている。また、記録は全職員が閲覧でき介護計画の見直し時にも活用している。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズ把握に努めるとともに、ご家族からの意見などについてもできるだけ柔軟な対応をするよう心掛けている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援は再開しているが地域の催し物や買い物を含め支援できていない。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時や利便性のことを踏まえ、併設特養の嘱託医にかかりつけ医を変更される利用者もおられます。専門医(眼科、脳外科など)受診の際は、ご家族の付き添いもしくは施設職員とご家族の付き添いで行っている。受診結果はケース記録に残し申し送り時に情報共有している。	かかりつけ医の受診を希望されている方は5名おられ、入居後も継続して受診ができるよう支援されている。訪問看護が週2回来られ、身体状態の確認や薬の確認が行われている。受診結果はケース記録に記入し職員間で情報共有されて、何かあれば、主治医や訪問看護に相談できる関係を築かれている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し、週2回の訪問と24時間連絡が取れる体制をとっている。訪問時に利用者の変化があれば都度報告し情報共有を行いまた、相談事にも指示を仰いでもらっている。受診が必要であればかかりつけ医や家族への報告を行い、受診がスムーズに行えるようにしている。		
32 (15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には既往歴や日常生活の様子、状態変化からの経過、現在の身体状況(ADLなど)を記載したフェイスシートを医療機関に情報提供している。地域連携室など入院先医療機関と電話連絡を取りながら都度確認を行い、退院前カンファレンスにも参加させてもらっている。	入院時はフェイスシートで情報提供されている。コロナ禍で面会ができず、入院中は地域医療連携室や家族と電話のやりとりで状態を確認されている。退院前のカンファレンスに参加し、退院後の生活の支援について情報交換が行われ、職員間で話し合いも行われている。	
33 (16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重症化した場合や看取りについての説明を行い、ご本人やご家族の意向確認を行っている。また状態に変化があった場合等は再度意向確認を行っている。重症化や今後事業所では対応が困難と予想される場合は、ご本人やご家族へ状態説明及び併設特養への移動等も視野に入れて今後の生活の場を相談しながら支援を行っている。	看取りについての指針があり看取り計画の書式も整備されている。今年1名の看取りが行われていた。本人や家族の意向を確認しながらその都度、事業所で出来ることを検討し、医療関係者などと連携を図りながら支援されている。看取り後は職員全員で振り返りが行われている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設特養と共同で委員会を設置・運営し、急変時や事故発生時の研修などをやっている。また、マニュアルを作成、掲示し、急変時にも対応できるよう共通理解を図っている。新人職員(技能実習生含め)には緊急時の物品場所と必要物品、保管場所を指導している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養と共同で避難訓練を実施しているが、コロナ禍でもありなかなか実施ができていないが11月末に昼間想定での避難訓練を実施予定となっている。避難経路は掲示し、消火器の配置確認はしている。非常時の飲食料は併設特養と共同で3日分備蓄している。	併設特養と共同で昼間の火災を想定した避難訓練を実施されている。現在BCP(業務継続計画)策定にあたり連絡体制を整え、地震に備えて設備の安全確認や訓練を検討されている。地域の消防団とは顔見知りの関係ができていますので、今後、地域との協力体制を築き災害に備えてほしい。	火災を想定した避難訓練だけでなく地震に備え、設備の安全確認や訓練を取入れるとともに地域との協力した災害対策の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の尊厳を傷つけないような言葉掛け(訪室時やトイレ誘導時など)を行うようにしている。また、言葉掛けに違和感があれば管理者からだけではなく職員同士でも指摘しあえるようにしている。月1回のミーティング時には必ず接遇について見直す機会を設けている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、日頃から接遇に関して話し合う機会を設けられ、職員間で注意しあえる雰囲気がある。それぞれの居室にトイレが設置されており、プライバシーが守られる環境が整っている。特に訪室時や排泄介助などには配慮しながら言葉かけが行われている。自己チェック票の活用など更なる取り組みが望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話からご本人の思いや希望を聞いたり自己決定がしやすいような言葉掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日のスケジュールは決まっているが、その人の生活ペースは崩さないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服への更衣時にご本人の着たい衣服を選択してもらうように言葉掛けを行うようにしている。散髪時はご本人の希望を聞いたり、衣料品や化粧品などの購入時はご本人の希望する品を購入支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの特色として毎食調理をしているが、調理だけでなく食事前のテーブルセッティングや片付けなどできるだけ利用者と一緒にしている。また、食べたい物の意向を伺ったり旬の食材を活かした調理をするようにしている。	毎日、3食とも、その日の勤務職員が調理を行っている。ある材料を使って、また利用者の意向を聞きながらメニューを決めている。利用者と共に準備や調理を担当していただく場合もあり、食事内容のレパートリーが広がったと喜ばれている。デリバリーを利用したり、お寿司やお弁当を買ってくる場合もある。誕生日にはその人が好きなものを提供されている。クリスマスケーキをみんなで作ったり、餅つきをしたり、手作りおやつなどもみんなで楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間献立表にメニューを記載し、偏りがないように少しでもバランスが摂れるように留意している。利用者個々の食事は都度確認し摂取量の確認を行っている。水分摂取量にも留意し、少ない利用者には言葉掛けや飲用されやすい物を代替提供し摂取量の確保に努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや歯磨き、義歯洗浄ができる利用者にはその都度言葉掛けを行い実施するよう支援している。難しい利用者は職員が介助をしているが全利用者はできていない。 訪問歯科診療を導入しており、希望される利用者は歯科医、歯科衛生士による定期的な往診、治療、口腔内洗浄を受けられている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ居室に設置してあるトイレを使用し排泄してもらっている。また、排泄チェック表を使用し解説間隔を把握しながら失禁の軽減に繋がるよう支援している。	居室に設置されているそれぞれのトイレにて、排泄支援がなされている。排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、失敗のない支援に努められている。車椅子利用されている利用者もトイレでの排泄に努められている。トイレの扉が開くと居室前の上のランプがつき職員が確認し安全に配慮することができる。自立に向けた排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄チェックを行いながらできるだけ下剤などの使用を少なくなるよう食事メニューを工夫したり水分摂取や運動する時間を設けられるよう留意している。 訪問看護師も訪問時に確認され蠕動運動の状態や排便有無を利用者・職員に尋ねられ状況を確認されている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ全員が毎日入浴できる環境であるが、入浴を拒否したり体調がすぐれない利用者は無理強いせず見合わせたりと臨機応変に対応している。 入浴時間やタイミングは他利用者とも調整を行いながら、できるだけ希望に添った時間に入浴するよう対応している。	基本的に毎日入浴するという今までの生活習慣の継続支援に努められている。夜間帯の時間に入浴を希望する方には、夕食後に対応するなど、一人ひとりの意向に沿うように配慮されている。ゆず湯などの季節湯を行い入浴を楽しめるように工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて就寝時間や消灯時間、起床時間に留意している。 日中も本人の意向や体調を確認しながら、活動時間と休息時間がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の処方箋をフロア毎にファイルに綴り、いつでも職員が閲覧できるように設置している。 誤薬の防止として、内服薬のセットの確認を前日2名で行い、服薬時も2名で確認をしてから服薬介助をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で洗濯物干しやたたみ、食器洗いなど役割を持ってもらい自身のやりがいを見出してもらえるよう支援している。散歩や気分転換として屋外に出て歩行訓練や現存機能を活かして作品作り等を取り入れ、楽しみある生活が送れるよう支援している。誕生日会ではご本人の食べたい物を聞き取り入れることで、楽しみや喜びを感じてもらえるよう配慮している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣の感染状況や感染対策に留意しながら季節感を感じれるような外出支援を取れている。 今後は徐々にご本人の希望に添った外出支援ができるよう支援していきたい。	新型コロナウイルス感染症の影響で外食や外出が難しくなっているなか、できる限りの外出支援に努められている。季節を感じていただくために、花見、紅葉、神社へドライブや、工場見学などに出かけられている。密にならないように対策を考えながら時期を見て慎重に行われている。散歩やベランダでの食事、外気浴をするなど戸外での支援に工夫がなされている。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を希望される方は自己管理してもらう体制は作っているが現在は管理されている利用者はいない。 自己管理が難しい利用者でも事業所で管理しながら好きな物が少しでも購入できるように支援している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の希望で携帯電話を所持、使用されている方においては自室内に関して自由に使用していただいている。 携帯電話を所持されていない方に関しても、要望があれば施設の電話を使用し、ご家族と連絡を取ってもらっている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共用区画の毎日の掃除や季節の花を飾ったり、季節に応じた壁画を制作し掲示している。 また、ご利用者それぞれが少しでも過ごしやすいうちの配置などもその都度検討して配置している。	食堂のほか大きなテーブルを囲んで過ごすことができる空間が設けられ、広い廊下のあちこちに、ベンチやソファ、ゆったりとくつろげるような椅子が置かれている。壁には季節の飾りつけが施され、ベランダでは、野菜や季節の花が育てられている。浴室や洗濯室なども清掃が行き届き、空気清浄機を設置したり定時に空気の入れ替えをするなど、衛生管理がなされている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペース(食事席)、くつろぎスペース(ソファ席)、ロビーなどの空間が少しわかれており、その時の気分に応じてご利用者自身のペースで過ごしてもらえ場所がある。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に居室を見学していただく時間を設け、可能な範囲で自宅で使い慣れた家具などを持ち込んでもらえるよう案内をしている。	各居室に木を基調としたベット、洗面台と広いトイレが設置されている。使い慣れた洋服ダンスや整理ダンス、籐の座椅子、テレビなどが持ち込まれている。家族の写真や花が飾られ、その人の個性を大切にした居室作りがなされている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室内はご本人やご家族とも相談しながら、ご本人が過ごしやすいうちの配置などもその都度検討している。共用スペースにおいては椅子やソファを設置し、どこでも休憩ができるようにしている。また、居室のところには自室が分かるよう表札代わりに名前を掲示させてもらったりしている。		